

# 南北朝の争いと室町幕府の成立

—身近な教科書の内容を中心とした授業展開—

広島市立船越中学校 小早川圭介

## 1 はじめに～授業で何を学ぶべきか～

これから学習する単元「海に開かれた時代」すなわち室町時代は、生徒にとってみれば、他の時代と比べれば、テレビなどのマスメディアでもあまり取り上げられず、なじみが薄い時代である。

「室町幕府」「足利尊氏」「足利義満」「金閣」「銀閣」「応仁の乱」といった語句のみは知っているが、「室町幕府は京都にあるのになぜ京都幕府と呼ばないのかな?」とか「なぜ、金閣は金箔が多く使用されているのに、銀閣に銀箔はまったくないのかな?」などと質問しても答えられる生徒は少ないと思われる。なぜなら、研究授業のように資料を事前に毎時間準備することは不可能に近いので、テストに備えた重要語句の説明のみに時間を取られ、先程の質問が答えられるための授業実践が不足しているように思われる。

その第一歩として、手間もかからず、身近な教科書の内容を中心にして、授業展開を提案したい。すなわち、教科書から史実の内容を読み取り、その疑問点や教師からの内容に関する質問を考えさせる。そして、教科書だけではわからない発展的な質問を授業内容から想像させ、そしてまとめる。このような日々の授業実践の積み重ねで、読みとる力・書きとる力・思い出す力・まとめる力といった基本的な学習する力をはぐくみ、さらに生徒自らが課題を設定し、それを解決する力をつちかうことができる。

このようなねらいから授業展開をしてみた。

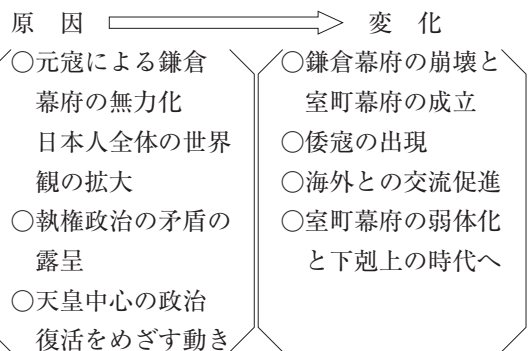


なぜ金閣寺は金箔が使われているのに、銀閣寺は銀箔がぜんぜん使われていないのかしら。

## 2 本単元の授業構成とねらい

授業展開で鎌倉時代から室町時代への大きな変化すなわち「歴史の大きな流れ」を大局的に考えさせることがまずたいせつであると思う。

その変化の原因と変化のおもなポイントを簡単に下の図でまとめてみた。



元寇の戦後処理への不誠実と以前からくすぶり続けた執権政治の矛盾の露呈から幕府への不満が高まり、幕府の崩壊へと急展開した。元寇からわずか50年余りのできごとである。

その崩壊した過程と新たに成立した天皇中心の政権とさらに武家中心の政権への急変をつかませ、両政権とも磐石な基盤を形成することができなかったことにも気づかせる。(南北朝時代へ)また、その原因もあわせて考えていきたい。

次に3代将軍足利義満が室町幕府を安定させたこと、彼の死後幕府は衰えていったことそれぞれの原因を考えさせ、今後の授業への導入としたい。(勘合貿易や応仁の乱をふまえながら)

次にこの時代における中国・朝鮮の世情および両国と日本の交流のようす(倭寇・貿易を中心に)をつかませる。そして、その状況から3代将軍足利義満の時代から幕府と中国・朝鮮との正式な貿易が始まったが、その貿易の概要をとらえさせ、また、その影響も考えていきたい。次に海外との交易は日本の中央部だけでなく、南端の琉球や北

端の北海道でも活発に行われていたようすをとらえさえ、さらにその地域の歴史も考えさせる。最後にこれらの地域とその後の日本との関わりも若干触れてみたい。

最後に、室町幕府のしくみを復習しながら、幕府の弱体化とその原因、さらに応仁の乱を契機とした戦乱の時代への変化のようすを考えていく。最後に、社会全体に与えた影響も触れてみたい。

単元全体に関わるねらいは

- ①今までの 権力者=天皇・公家・武士  
被支配者=農民・職人・商人  
という既成概念が崩壊し、  
権力者<民衆などの実力者  
へと変化したことを気づかせる。
- ②東アジアを中心とした世界観が一部の権力者だけでなく、社会全体に広がり、日本人の意識変革へとつながったことをとらえさせたい。
- ③ ①・②の変化が日本人全体に波及することで、新たな日本の歴史を刻み始める原動力になったことも考えさせたい。

補足として、教科書の記載が少ないのが原因かと思われるが、歴史学習全体で「江戸時代の鎖国」のイメージが強く、鎖国の期間がわずか200年余りにもかかわらず、「長い間、日本は海外との積極的な交流はあまり行われていなかった」というイメージを強くもっている生徒が多い。そのイ

メージを何とか変えていくのもねらいの一つとしてあげたい。

### 3 授業実践

「2. 本単元の授業構成とねらい」を十分に指導者側が把握して、「1. はじめに」に基づき、次の課題について班単位の話し合い、解決していく展開で授業を進めるようにしたい。

#### 【南北朝の争いと室町幕府の成立】

「後醍醐天皇」と「足利尊氏」の2人の人物をクローズアップし、鎌倉時代から室町時代の変化のようすを考えさせる。

#### ◎ 導入

前時まで学習した鎌倉幕府への不満の実態を再確認し、教科書(p.70~71)の本文などから後醍醐天皇や足利尊氏の行動のようすを読み取らせる。

その中から班単位でわからない語句や疑問点についてまとめさせる。特に隠岐への流刑から復活したことなどから、後醍醐天皇の人物像を想像させたい。余裕があれば、今まで学習してきた天皇名を何人か思い出させ、後醍醐天皇との違いも考えさせても面白い。

#### ◎ 展開

まずは、各班で考えたわからない語句や疑問点について発表させる。

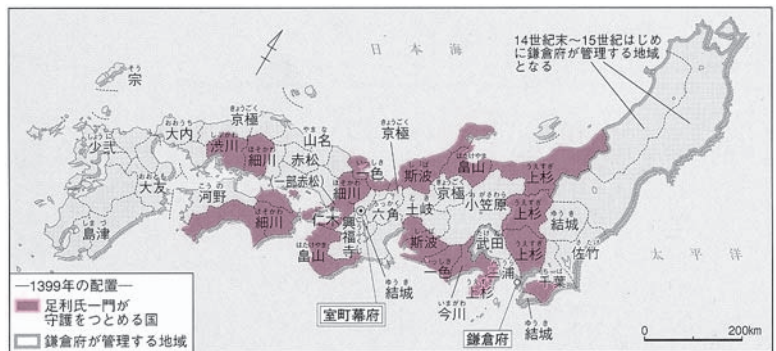
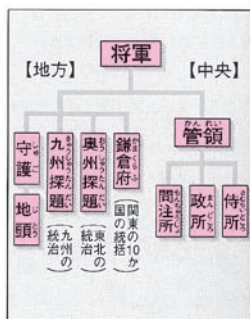
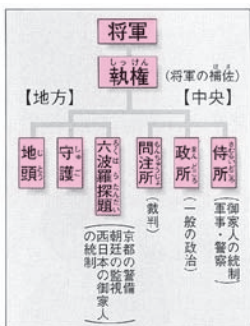
その発表を整理しながら、最初は後醍醐天皇の行動について

「幕府を倒すことができたのはなぜか？」

「幕府を倒し、めざしたものは何か？」

を話し合わせ、導入のまとめに基づき、発表させる。

そこで、足利尊氏をはじめとする武士と楠木正



帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.71

成をはじめとする悪党勢力の存在を確認する。

ここで鎌倉幕府滅亡の鍵を握った足利尊氏という人物について知っていることを発表させ、さらに意見が少ないときは補足説明してその人物像をつかませる。次に足利尊氏の行動から「なぜ、鎌倉幕府を裏切り、後醍醐天皇に味方をしたのか」「尊氏が天皇を裏切った理由とそこからめざしたものは何か?」「尊氏の裏切後、後醍醐天皇はどうしたか?」を順を追って話し合わせ、導入のまとめにもとづき、発表させる。

最後の質問で「吉野」という地名が出てくることが予想されるので地図帳(p.73~74)を使用し、京都との位置関係を確認する。そして「なぜ、ここに朝廷を移したか?」も考えさせる。

これまでの授業内容で、各班で考えた疑問点やわからない語句の課題が解決されているか確認させ、解決されていないときもしくは説明不足と感じるときはその内容を再度提示させる。

質問数が多く感じられるが、教科書の内容からの質問が多く、ある程度の答えは得られると思われる。もし、解決できない場合は、再度教科書を熟読させて、再考させてもよい。それでも解決できない場合もあるだろう。そのためのために、やはり指導側として、ある程度の補足資料(指導書等)を用意しておくことも必要と思われる。

#### ◎ まとめ

これまでの学習をもとに、「後醍醐天皇はなぜ建武の新政に失敗したのだろうか?」「なぜ、足利尊氏は、鎌倉に幕府を開かず、京都に幕府を開いたのか?」を想像し、考えさせ

る。

特に、2番目の質問については、教科書p.71の日本地図をヒントとして考えさせても面白い。

もう一度、これまでの学習に基づき、「後醍醐天皇と足利尊氏ってどんな人物か?」についてまとめさせる。時間がなければ、宿題でもよい。

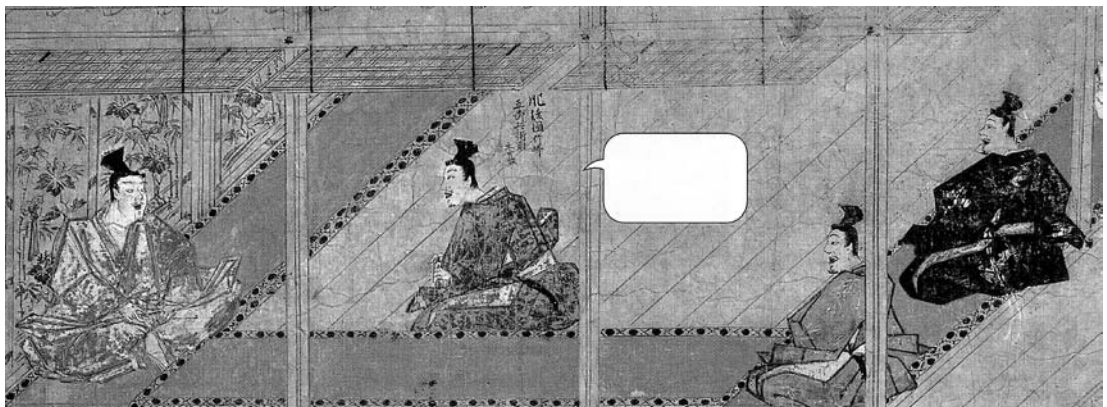
## 4 最後に

以前から生徒の興味・意欲を高めるために、映像・漫画・身近な話題など、わかりやすい内容を導入部分に取り入れることを模索していた。しかし、導入後の学習活動(教科書の内容以上のことを考えさせる、板書などのまとめをさせるなどの面倒くさい活動)に入ると、即座に意欲を失う生徒が多く出てくる現実がある。しかも、社会科にかぎらず、どの教科にも不可欠な学習能力(読解力)が不足ぎみの現実もある。すなわち、教科書の基本的な語句さえ理解できない生徒などもある。

このような現実から、小さい子どもをあやすような導入展開より、少々興味がなくても、むしろ、教科書を中心とした手軽な授業展開で、読み取る力など基本的な自ら学習する力をはぐくみ、わかる喜びを感じさせることの多い授業の方が、生徒一人ひとりに自信がつくように思う。

すなわち、社会科だけにとらわれない授業展開を構築しないと生徒の基礎・基本は定着しないようにも思われる。

そうは言っても、理想の授業実践がなかなかむずかしいのが、日々の課題であるが……。



帝国書院『中学生の歴史(最新版)』p.66